

目ざせ！エコライフスクール

ねらい・目的



- ・学校は子どもにとって1日の半分の時間を過ごす場であるだけに、学校生活から受けている影響は極めて大きいといえる。よって、この学校生活の中で、省エネにつながる行動に取り組んでいくことができれば、環境に配慮した生活習慣を身に付けていくことが期待できる。
- ・一人一人から始まった小さな省エネ行動を学級や学年、全校へと広げていくことで、学校全体で環境を大切にしようとする意識につながる。そうした意識の高まりを学校における「生活のきまり」などへ「環境に関する項目」として反映させることができれば、取り組みが日常的に実践されていく効果が期待できる。

取り組みの背景として



子どもの頃から、環境に配慮した生活習慣を身に付けることが大切です。

このままだと

環境意識が希薄になることで、次世代へ良い環境を引き継ぐことが難しくなります。

だから

「学校全体での省エネ」に取り組むことで、行動の日常化を目指します。

取り組み項目(実施方法)



取り組み1 「エコライフレポート」に取り組んで、環境にやさしい夏・冬休みを送ろう

- 「エコライフレポート」を見ながら、長期休業中の生活の目標を考えよう！
- ・わたしたちが休みの中の過ごし方を工夫するだけで、環境にやさしくすることができるんだね。
- ・夏休み・冬休みに環境にやさしい目標を入れてエコライフに取り組んでみよう。



ポイント

学期末にエコライフレポートを配布し、どのような取り組みがあるかを具体的に示す。生活表への評価や休み明けの声かけなど、教師側の働きかけがあると、より効果的である。

ちょっとした簡単な工夫が、環境へのやさしさにつながるんだ。

取り組み2 環境にやさしい学校生活を送ろう

- 学校でも、環境にやさしい生活を送ることができないだろうか？
- ・使われていない教室の照明がつきっぱなしだったことがあるよ。
- ・水飲み場の水や教室の紙も、もっと大切に使えるね。
- ・まずは自分の学級の生活の仕方を見直していこう。

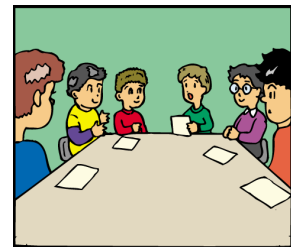


- ポイント** エコライフレポートでの実践を生かし、「電気、水、ごみなどの無駄をなくす」などといった簡単に、日常的に実践できる内容に取り組んでいく。
- 高学年であれば、取り組み成果を具体的な二酸化炭素量に換算し、成果を実感させることも可能である。

学校生活を工夫するだけでも、環境へのやさしさにつながっていくんだ。

取り組み3 エコライフを全校で。目ざせ！エコライフスクール

- 学校全体でエコライフに取り組む作戦を考えよう。
- ・エコライフを学校の「めあて」の中に入れられないかな。
- ・「環境に関するコーナー」をつくると、全校でエコライフに取り組むことができるよ。
- ・夏や冬など季節によっても、取り組み方法に違いがあると思うよ。



- ポイント** 適応指導などで活用している「学校のきまり」などを、環境という視点で見直すことで、節電や節水、ごみ減量などといったエコライフにつながる具体的な方法が見えてくる。

全校で取り組めば、これからももっと、環境にやさしくなれるね。

取り組み効果



効果 1 地球にやさしい生活は、「エコライフレポート」の行動から！

「エコライフレポート」から、すぐに取り組むことができる「具体的な行動」が分かる。

効果 2 家庭と学校のどちらでも、同じ取り組みができる！

「電気」「水」「ごみ」「暖房」などは、どれも毎日の生活と関わりの深いものばかりである。それゆえに、「家庭で取り組んでいることを学校でも」または、「学校で取り組んでいることを家庭でも」というように、場所を選ばずに省エネ活動が継続できる。



■発信！児童委員会から全校児童へ！（小学校編）

児童会活動で環境に配慮する活動を位置づけ、学校全体で取り組む。

■省エネ大作戦（家庭・地域・職場編）

家庭でのエネルギーの使い方を振り返り、簡単にできる省エネに取り組む。

■職場でも環境への負担を抑える行動を（家庭・地域・職場編）

省エネ・省資源に取り組み、事業活動からの環境負荷を減らす取り組みを行う。

★総合的環境副教材

5・6年生用 2 身の周りの環境 (5) エネルギーと私たちの暮らし



環境にやさしい取り組みがわかるホームページ

○さっぽろエコ市民運動

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/ecoshimin/index.html>

○札幌市環境プラザホームページ

<http://www.kankyo.sl-plaza.jp/>